

平成21年度全国学力・学習状況調査の公表に係る県教育長のコメント

平成21年8月27日

本日、今年4月21日に実施した全国学力・学習状況調査の結果が公表されました。

本県の小中学生の学力は国語・算数数学ともに依然として厳しい状況にあります。小学生の平均正答率は全国平均正答率より1.0～2.7ポイント低く、中学生の平均正答率も2.8～7.2ポイント低い状況です。

しかしながら、中学校は国語、数学ともに全国との差が徐々に縮まっており、昨年度から実施している中学校の学力向上対策の成果の現れと評価することができます。

一方、小学校では、国語は全国とほぼ同程度の平均正答率であったものの、算数では全国との差がひらいており、その原因を詳細に分析したうえで、「単元テスト」の活用をはじめとした、学習内容をより確実に定着させるための具体的な手立てを講じなければなりません。中学校においては、これまでの手立てを確実に履行するとともに、小学校においては、一層の課題意識をもって学校をあげて取組を強化することが求められています。

次に質問紙調査では、これまで大きな課題があった中学校において、家庭学習については勉強時間が30分未満の割合が減少しており、改善傾向が見られます。また学校の取組についても「実践的な校内研修」や「調査結果の活用による指導改善」などが積極的に行われていることがうかがわれます。このように、昨年7月にまとめた「学力向上・いじめ問題等対策計画」の中で取り組むべき指針を示し、各学校も自校が作成した「学力向上のための学校改善プラン」に基づく改善方策を実行し、県をあげて学力向上に取り組み始めた成果は、着実に子どもたちや学校の変化として現れております。

県教育委員会としましては、各学校の学力向上のための学校改善プランが確実に実行され成果をあげるために、学校訪問指導の支援をさらに充実させたいと考えております。私は、学力向上への近道はなく、こつこつと日々やるべきことを徹底（凡事徹底 凡事一流 継続は力）して実行することが大切であると考えています。今回の調査結果を踏まえ、個々の方策について、その有効性を精査し、学力向上のための取組の徹底と質的な向上を図りながら、それをさらに継続し、徹底してまいります。

各市町村・学校におきましても、この調査結果を速やかに分析し、課題の把握とその解決に向けた具体的な改善策を立て、実行に移せるよう指導・助言してまいります。

高知県教育長 中澤 卓史